



エコアクション21 環境経営レポート

81期(2023年10月～2024年09月)



作成日: 2025年2月28日

代表取締役	環境管理 責任者



生晃栄養薬品株式会社



企業理念

医薬品の開発・製造を通し、人の健康と幸せに貢献します

「人の健康と幸せに貢献する」ことを企業理念とし、「誠実・努力・感謝」の姿勢で、地道に堅実に医薬品を作り続けていきます。

コンプライアンス方針

行動規範

①信頼される医薬品製造・販売

法令やルール（GQP・GMP等）を遵守し、世の中に求められる医薬品を誠実に提供します。

②健全な企業活動と取引

我々の製造・企業活動を支えていただくお取引先に感謝の気持ちを忘れず、法令や業界自主規制等を遵守し、公正で自由な競争に基づく健全な取引を行います。

③働きやすい職場、人権の尊重

従業員の多様性・人格・個性を尊重し、倫理観・資質の向上を図るとともに、安全で働き甲斐があり、自己実現のできる職場づくりに努めます。

④環境への配慮

環境問題への取組は、企業の社会的責任であり、持続可能な成長に必須の要件であると認識し、自主的・積極的に行動します。

⑤よき企業市民としての社会的責任

地域社会との共生、社会貢献活動への支援など、企業の社会的責務を積極的に果たします。



目次

Contents

- I. 事業活動の概要 … P4
- II. 環境経営方針 … P7
- III. 実施体制…P9
- IV. 環境経営目標（環境負荷の低減目標） … P11
- V. 環境経営計画 … P15
- VI. 環境経営目標の実績 … P17
- VII. 環境経営計画の取組結果とその評価…P37
- VIII. 次年度の環境経営計画…P39
- IX. 法規の遵守状況…P45
- X. 代表者の見直し…P49



I.事業活動の概要

1. 事業社名及び代表者名

生晃栄養薬品株式会社 （創業年：昭和22年10月1日）

代表取締役 蔵野 裕子

（2024年09月30日 現在）

2. 所在地

（1）本社・大阪工場：

〒555-0025

大阪市西淀川区姫里二丁目3番28号

（2）若狭工場：

〒919-1552

福井県三方上中郡若狭町若狭テクノバレー1号堤4-7、
4-10



I.事業活動の概要

3. 環境保全関係の責任者、担当組織及び連絡先

環境管理責任者： 常務取締役 橋口 慎二
(2024年09月30日 現在)

担当組織： EHS推進事務局
事務局長： 部長 磯崎 雅之
本社・大阪工場担当： 参与 里仲 達也
若狭工場担当： 主任 山下 芳博

連絡先： TEL 本社・大阪工場 06-6473-1623
若狭工場 0770-62-2135

FAX 本社・大阪工場 06-6475-8080
若狭工場 0770-62-2132

E-mail
事務局長 wakasa_f@seiko-eiyo.co.jp
本社・大阪工場担当 satonaka@seiko-eiyo.co.jp
若狭工場担当 sewf-pc7@seiko-eiyo.co.jp



I.事業活動の概要

4. 事業の内容

①対象活動範囲（認証・登録範囲）

医薬品製造

②環境経営レポートの対象期間

81期（2023年10月01日～2024年09月30日）

③主な原材料

白糖、乳糖水和物、沈降炭酸カルシウム、タルク、エタノール 他

④認証登録範囲

（1）本社・大阪工場

（2）若狭工場

⑤従業員数

369名（2024年09月30日 現在）

（1）本社・大阪工場：117名

（2）若狭工場：252名

⑥事業の規模（81期（2023年10月01日～2024年09月30日））

売上高：57.2億円

（1）本社・大阪工場：10.6億円

（2）若狭工場：46.6億円

延べ床面積：29,539m²

（1）本社・大阪工場：4,285m²

（2）若狭工場：25,244m²



Ⅱ.環境経営方針

基本理念

人類の健康と地球規模の環境保全は全世界共通の願いであり、生晃栄養薬品株式会社は、社会の一員として地球環境問題を当社の最重要課題の一つとして位置づけ、「人の健康と幸せに貢献する」という当社企業理念に基づき、全社一丸となって自主的、積極的、かつ継続的な環境保全活動を推進してまいります。

行動指針

生晃栄養薬品株式会社若狭工場は基本理念に則り、医薬品の製造に関する事業活動を行う中で、以下の環境経営システム活動を行います。

1. 省エネ・省資源の推進

環境への負荷をできる限り少なくし、循環を基とする企業活動を目指します。

- ① 二酸化炭素（電気・LPG・都市ガスなど）の排出量の削減に努めます。
- ② 産業廃棄物（汚泥・廃プラ・廃アルカリ）の削減に努めます。
- ③ 一般廃棄物（可燃ゴミ・不燃ゴミ・資源ゴミ（紙・鉄）・資源ゴミ（プラ））の3R活動（リデュース、リサイクル、リユース）の推進に努めます。
- ④ 5S、改善活動を日々行い、効果的な環境負荷の少ないプロセスの向上を推進します。
- ⑤ 環境に配慮した設備、備品、消耗品、消耗工具等のグリーン購入を推進します。
- ⑥ 節電・節水に努めます。



Ⅱ.環境経営方針

2. 活動の継続

環境方針に基づいて環境計画・目標を設定し、継続的な環境保全活動を推進し、企業としての環境課題への責任を果たします。

3. 法令等の遵守

事業活動を通じて、環境に関する法令・条件・協定および当社が同意するその他の事項を遵守します。

4. 社員の教育

全社員に対し、必要な教育を行い、環境に対する理解と意識の向上を図ります。

5. 方針の公開

本方針は、全社員に周知徹底するとともに、社外の求めに応じて開示します。

6. 社会への貢献

地域や関係団体の環境保全に関する活動に積極的に参加し、地域社会との共生を図ります。

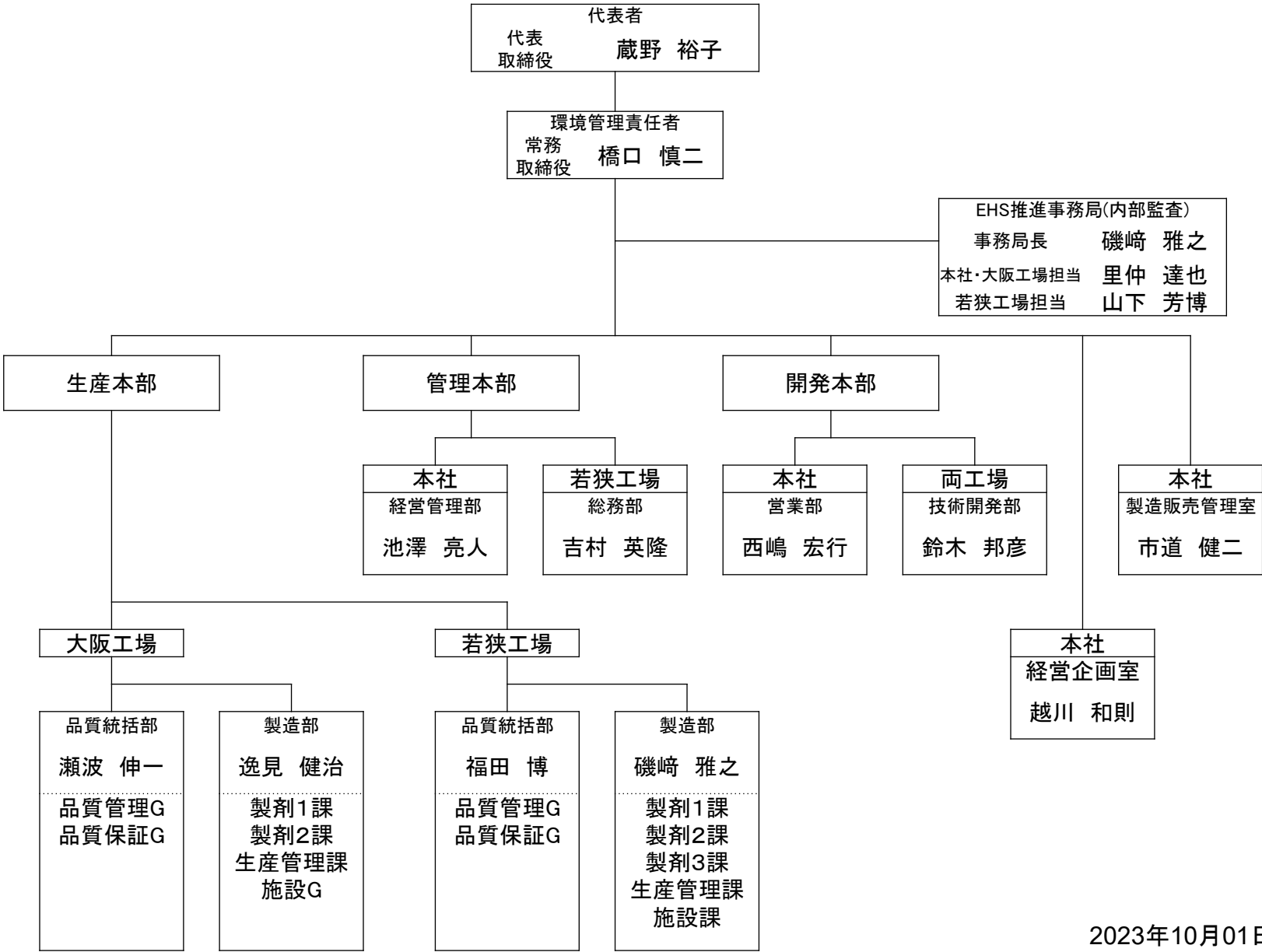
2024年09月30日

生晃栄養薬品株式会社

代表取締役 蔵野 裕子



Ⅲ.実施体制



2023年10月01日 現在



Ⅲ.実施体制

	役割・責任・権限
代表者(代表取締役)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標、環境経営計画書の確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
EHS推進事務局	・環境管理責任者の補佐、環境管理責任者の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・環境経営目標、環境経営計画書の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



Ⅳ.環境経営目標（環境負荷の低減目標）

本社・大阪工場

二酸化炭素排出量（電気、ガソリン、軽油、都市ガス）について、前年度実績および生産計画にあわせたものから1%削減を基本とする。廃棄物排出量・水使用量についても前年度実績及び生産計画にあわせたものから1%削減を基本とするが、以降、毎年の生産計画に合わせて削減目標を設定する。廃棄物（一般・産業）リサイクル率については、モニタリングとする。

本社・大阪工場 81期(2023年10月01日～2024年09月30日)の目標値

年間総量			78期 (2020/10/01～ 2021/09/30) 基準年度	79期 (2021/10/01～ 2022/09/30)	80期 (2022/10/01～ 2023/09/30)	81期 (2023/10/01～ 2024/09/30)	82期 (2024/10/01～ 2025/09/30)
二酸化炭素排出量	kg-CO2	目標	659,692	669,976	718,552	641,849	499,531
		実績	676,743	725,764	648,322	442,617	
電気の使用量	kwh		1,024,803	1,042,516	1,085,959	975,488	1,041,811
ガソリンの使用量	L		2,082	2,355	3,594	2,355	3,888
軽油の使用量	L		2,929	2,301	2,418	2,301	1,802
都市ガスの使用量	m ³		65,776	66,952	78,045	66,952	74,510
一般廃棄物の排出量 (リサイクル率維持)	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	kg		6,063	8,478		8,478	8,702
産業廃棄物の排出量 (リサイクル率維持)	%		4.3	4.3	4.3	4.3	24.8
	kg		16,280	21,632	28,802	21,632	43,684
水使用量	m ³		4,259	4,296	4,731	4,296	4,891
化学物質取扱量 (塩化メチレン)	kg		当面実数把握	当面実数把握	当面実数把握	実績なし	



Ⅳ.環境経営目標（環境負荷の低減目標）

本社・大阪工場

・整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（5 S）の推進については、まず1 S（しつけ）から始める。
順次取り組みを進める。

①二酸化炭素の排出量は、前年度実績及び生産計画にあわせたものから1%削減とする。

②一般廃棄物の排出量は、前年度実績及び生産計画にあわせたものから1%削減とする。

③産業廃棄物の排出量は、前年度実績及び生産計画にあわせたものから1%削減とする。

リサイクル率については、モニタリングとする。

④水使用量は、前年度実績及び生産計画にあわせたものから1%削減とする。

⑤自らが生産・販売する製品及びサービスに関する環境経営目標については、医薬品の規定により安易に改善できないことから、目標設定は行わない。

⑥購入電力の二酸化炭素排出係数は 0.311 (kg-CO₂/kWh)を用いた。



Ⅳ.環境経営目標（環境負荷の低減目標）

若狭工場

二酸化炭素排出量（電気、LPG使用量）・廃棄物排出量は、78期（2020/10/01～2021/09/30）の実績を基準として、生産計画に合わせた1％削減とする。以降、前年度比1％削減を基本とする。廃棄物（一般・産業）のリサイクル率については、78期の実績数量の維持を当面の目標とする。LPG使用量は、A重油から更新した分が増えるため、77期の実績から算出した目標とする。二酸化炭素排出量は、太陽光発電分を差し引いた目標とする。

81期(2023年10月01日～2024年09月30日)の目標値

年間総量			78期 (2020/10/01～ 2021/09/30) (基準年)	80期 (2022/10/01～ 2023/09/30) 前期	81期 (2023/10/01～ 2024/09/30) 当期	82期 (2024/10/01～ 2025/09/30) 来期
二酸化炭素排出量	kg-CO2	目標	10,652,587	11,759,499	11,641,904	11,525,485
		実績	10,966,041	11,359,824		
原単位(実績)	kg-CO2 /千錠	目標	7.146	6.013	6.013	6.013
		実績	6.013	5.388		
電気使用量	kwh	目標	10,159,315	11,271,283	11,158,570	11,046,985
		実績	10,363,850	10,845,726		
原単位(実績)	kwh /千錠	目標	6.193	5.683	5.683	5.683
		実績	5.683	5.144		
A重油使用量 78期8月以降廃止	ℓ	目標	207,869	－	－	－
		実績	175,698	－	－	－
L P G	kg	目標	322,861	591,660	585,743	579,886
		実績	371,372	572,314		
一般廃棄物排出量 リサイクル率向上	kg	目標	86,130	100,534	114,109	112,968
		実績	92,440	115,262		
	%	目標	94.8	90.7	90.7	90.7
		実績	90.7	92.7		
原単位(実績)	kg/千錠	目標	0.041	0.051	0.051	0.051
		実績	0.051	0.055		
産業廃棄物排出量 (汚泥、ガラス・陶磁器・プラ 廃アルカリ) リサイクル率向上	kg	目標	340,891	398,492	394,507	390,562
		実績	366,410	337,100		
	%	目標	25.7	46.2	46.2	46.2
		実績	46.2	72.7		
原単位(実績)	kg/千錠	目標	0.215	0.201	0.201	0.201
		実績	0.201	0.160		
水使用量	m³	目標	26,740	30,817	30,509	30,204
		実績	28,336	36,700		
原単位(実績)	m³/千錠	目標	0.017	0.016	0.016	0.016
		実績	0.016	0.017		
化学物質取扱量 (N-(4-ヒドロキシフェニル)アセトアミド)	kg		当面実数把握	当面実数把握	当面実数把握	当面実数把握



Ⅳ.環境経営目標（環境負荷の低減目標）

若狭工場

・整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（5S）の推進については、まず1S（しつけ）から始める。

順次取り組みを進める。

- ① 二酸化炭素の排出量は、78期の実績を基準として、80期目標は79期目標値に対しての1%削減とする。
- ② 一般廃棄物（可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源ゴミ（紙・鉄）、資源ゴミ（プラ））は、79期目標値の1%減とする。
リサイクル率は78期基準を維持していくが、可燃ごみの焼却量を減らす改善を推進する。
- ③ 廃棄物等排出量は、78期実績を基準として、81期目標は80期実績からの1%減とする。
リサイクル率は、78期基準を維持する。
- ④ 水使用量の81期目標は、78期の実績を基準として80期目標値の1%減とする。
- ⑤ 自らが生産・販売する製品及びサービスに関する環境経営目標については、医薬品の規定により安易に改善できないことから、目標設定は行わない。
- ⑥ 購入電力の二酸化炭素排出係数は、78-80期:0.493 (kg-CO₂/kWh)、81期:0.311 (kg-CO₂/kWh)を用いる。



V.環境経営計画

本社・大阪工場

目標	具体的取組内容	担当部署
二酸化炭素 排出量の削減	電力の削減(事務系) ・空調温度管理(夏:26℃、冬:20℃) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・照明の消灯による節電(昼休み、未使用時) ・節電意識の徹底を図る ・機器設備の運転効率維持(点検・整備) ・工場設備運用の見直し(ムダの削減) ・工場設備の見直し検討(運転効率化)	全社員
	都市ガスの削減 ・定期点検・整備により運転効率の低下防止 ・燃料効率の悪化防止(蒸気配管メンテナンス) ・空調運転の効率化による燃料削減	全社員
	ガソリンの削減(社用車) ・公共交通機関の利用推進 ・社用車のエコドライブの徹底 ・燃料効率の悪化防止、効率の向上	運転者
廃棄物廃棄量 の削減	分別徹底による、再利用・再生利用、削減に努める	全社員
	産業廃棄物の再生利用化、熱回収化、再資源化に努める	
	生産時のロスを減らす	
水使用量の削減	排水(工場・生活)の削減に努める	全社員
	こまめに節水に努める(流しっ放しをしない)	
	節水を促す啓蒙表示を行なう	
	生産機器・備品の洗浄方法の見直しを検討し節水に努める	
フロン排出抑制	特定フロン使用機器の更新に努める	製造部施設G
	法定点検の実施:定期的に点検・整備を行い、運転状態を良好に維持する	
5Sの推進	整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(5S)の推進	6S委員会
その他	その他、環境に関する情報の収集	事務局
取組事項	環境経営活動状況について委員会内で情報共有を活発にする	6S委員会
	社員の環境への意識高揚のために定期的な研修会や会議を行う	



V.環境経営計画

若狭工場

目標	具体的取組内容	担当部署
二酸化炭素 排出量の削減	電力の削減(事務系) ・空調温度管理(夏:26℃、冬:20℃) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・照明の消灯による節電(昼休み、未使用時) ・節電意識の徹底を図る	全社員
	電力の削減(製造系) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・機器設備の運転効率維持(点検・整備) ・工場の運用方法見直し検討(運転スリム化) ・工場設備の見直し検討(運転効率化)	製造部
	LPGの削減 ・ボイラ運転の効率化による消費抑制 ・燃料効率の悪化防止(蒸気配管メンテナンス) ・工場運用の効率化による燃料削減	施設課
	ガソリンの削減(社用車) ・社用車の省エネ運転の推進 ・ディーゼルエンジン車のエコドライブ徹底 ・燃料効率の悪化防止(定期整備) ・省燃費に有効な整備の実施	運転者
廃棄物廃棄量 の削減	分別徹底による、再利用・再生利用に努める	製造部
	産業廃棄物の再資源化に努める	
	生産時のロスを減らす	
水使用量の削減	排水(工場・生活)の削減に努める	総務部 製造部
	こまめな節水に努める(流しっ放しをしない)	
	節水を促す啓蒙表示を行なう	
フロン排出抑制	特定フロン使用機器の更新に努める	施設課施設G
5Sの推進	しつけ(挨拶を行なう)から実施する	5S委員会
教育訓練	環境意識の高揚のため定期的を実施する	総務部



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

項目	単位	78期 基準	81期 目標	81期（2023年10月～2024年09月）		達成状況
				対象期間 目標	対象期間 実績	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	676, 743	641, 849	641, 849	442, 617	○/0.688
電気の使用量	kwh	1, 053, 046	975, 488	975, 488	925, 729	○/0.946
ガソリンの使用量	L	2, 379	2, 355	2, 355	3, 445	×/1.462
軽油の使用量	L	2, 324	2, 301	2, 301	1, 597	○/0.694
都市ガスの使用量	m³	67, 628	66, 952	78, 045	66, 020	○/0.846
一般廃棄物の排出量 （リサイクル率維持）	%	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	○/0.909
	kg	9, 349	8, 478	8, 478	7, 710	
産業廃棄物の排出量 （リサイクル率維持）	%	0	10. 0	10. 0	24. 8	×/1.789
	kg	23, 854	21, 632	21, 632	38, 706	
水使用量	m³	4, 737	4, 296	4, 296	4, 334	○/1.009
化学物質取扱量 （ジクロロメタン）	kg	41	0	-	-	
*目 標		対象期間(2023/10～2024/09) 12ヶ月 （削減目標のみで リサイクル率は除く）				
評価結果		売上高 前年比 101.9% （2023年10月～2024年9月実績） 二酸化炭素排出量（実績／目標＝0.688）について、前年比1%の削減目標は達成できた。 要因は、電気の使用量が目標を達成した事、電気のCO2排出係数が前期より下がった事の2件が大きく影響したと考えられる。 個別に見ると二酸化炭素排出量に影響の大きい電気使用量（実績／目標＝0.946）、都市ガス使用量（実績／目標＝0.846）であったが、これは一時的に生産を中断していた製品があった事による為と考えられる。5月から生産が再開されており、その頃から電気の使用量は上がっている。また、コロナをはじめ感染症対策として、社用車の利用機会が増えたことからガソリン使用量（実績／目標＝1.462）が目標値を上回った。一方で軽油使用量（実績／目標＝0.694）については、前期に引き続き自社トラック便による運搬効率を改善し、運搬回数を減らせた結果ではないかと推察する。 一般廃棄物については、（実績／目標＝0.909）と目標を達成したが、産業廃棄物（実績／目標＝1.789）については、目標から大きく離れた結果となった。これも前述した一時的に中断していた製品が再開したこと、新包装ラインの立ち上げによる廃棄物があり、目標に届かなかったと推察する。 水使用量（実績／目標＝1.009）については、再開した製品の影響があったと考える。				



Ⅵ.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

是正処置及び予防措置

- ・ PTPシートをリサイクル実績は、8.930kg（回収回数は18回）であった。回収回数を低減し、エネルギーとコストの低減ができるよう検討する。
- ・ 今後も廃棄物の削減に向けて取り組めるよう情報収集活動を継続する



VI.環境経営目標の実績

若狭工場

項目	単位	78期実績基準	81期目標	81期(2023年10月～2024年09月)		達成状況	
				対象期間目標	対象期間実績		
二酸化炭素排出量	kg-CO2	10,966,041	11,641,904	11,641,904	5,144,054	0.442	○
原単位	kg-CO2/千錠	6.013	基準年度維持	6.013	2.422		
電気使用量	kwh	10,363,850	11,158,570	11,158,570	11,107,970	0.995	○
原単位	kwh/千錠	5.683	基準年度維持	5.683	5.229		
L P G使用量	Kg	371,372	585,743	585,743	626,396	1.069	×
一般廃棄物排出量	%	90.7	90.7	90.7	86.8		
(リサイクル率維持)	Kg	92,440	114,109	114,109	93,485	0.819	○
原単位	kg/千錠	0.051	基準年度維持	0.051	0.044		
産業廃棄物排出量	%	46.2	46.2	46.2	68.6		
(リサイクル率維持)	Kg	366,410	394,507	394,507	399,470	1.013	△
原単位	kg/千錠	0.201	基準年度維持	0.201	0.188		
水使用量	m ³	28,336	30,509	30,509	40,823	1.338	×
原単位	m ³ /千錠	0.016	基準年度維持	0.016	0.019		
化学物質取扱量	N-(4-ヒドロキシフェニル)アセトアミド	kg	—	—	149,099.8		
		kg					
*目 標	対象期間(2023/10～2024/09) 12ヶ月 (削減目標のみで リサイクル率は除く)						
評価結果	(1) 二酸化炭素排出量 実績／目標＝0.442となり、削減目標を達成できた。原単位でも、2.422と78期基準（6.013）を改善できている。 (2) 電気の使用量 実績／目標＝0.995となり、削減目標は達成できた。原単位でも、5.229と78期基準（5.683）を改善できている。 (3) L P Gの使用量 実績／目標＝1.069となり、削減目標を達成できなかった。 (4) 一般廃棄物排出量（リサイクル率） 実績／目標＝0.819となり、目標を達成できた。原単位でも、0.044と78期基準（0.051）より改善した。 リサイクル率は86.8％となり、目標より若干悪化した。 (5) 産業廃棄物排出量（リサイクル率） 実績／目標＝1.013となり、目標を達成できた。原単位でも、0.188と78期基準（0.201）を改善できている。 リサイクル率も72.7％となり、目標を上回った。 (6) 水使用量 実績／目標＝1.338となり、削減目標を達成できなかった。原単位でも、0.019と78期基準（0.016）を維持できなかった。						



VI.環境経営目標の実績

若狭工場

是正処置及び予防措置

当81期年度（2023/10月～2024/09月）は、対象期間目標値に対して、二酸化炭素排出量・電気使用量・一般廃棄物排出量（リサイクル率）は達成できたが、LPG使用量・産業廃棄物排出量・水使用量は達成できなかった。原単位としては、概ね基準値を改善もしくは維持できているので、生産効率は良くなっている。

二酸化炭素排出量については、LPGの排出係数見直しにより目標値を達成できたと。電気使用量は昨年実績からは増えており、社内設備の増設（F棟増築棟の新設）が要因と考える。また、LPG使用量の増加については、一部の空調をLPGに変更したことが増えた要因と考える。また、工場の空調運転について、昼間と夜間での運転負荷を調整した運用が継続できていると考える。社内のMP活動の取組が成果を上げていると考える。

一般廃棄物排出量については、前年生産量から微増（錠数ベース：100.8%）であったが、目標値を達成（81.9%）することができた。また、保管期限を過ぎた書類（焼却廃棄）が多いため、リサイクル率は86.8%と悪くなっている。

産業廃棄物排出量については、目標設定値を達成（101.3%）できなかったが、前年生産量から微増（錠数ベース：100.8%）していたことを考えると、生産における不良廃棄が若干増えたと考える。また原単位では基準値より改善できているため、MP活動に取組みが反映されていると考える。

水使用量については、目標設定値を超過（133.8%）しており、生産量の微増（錠数ベース：100.8%）している以上に使用されたと考える。原単位ではほぼ維持できているため、MP活動による取組みが反映されていると考える。

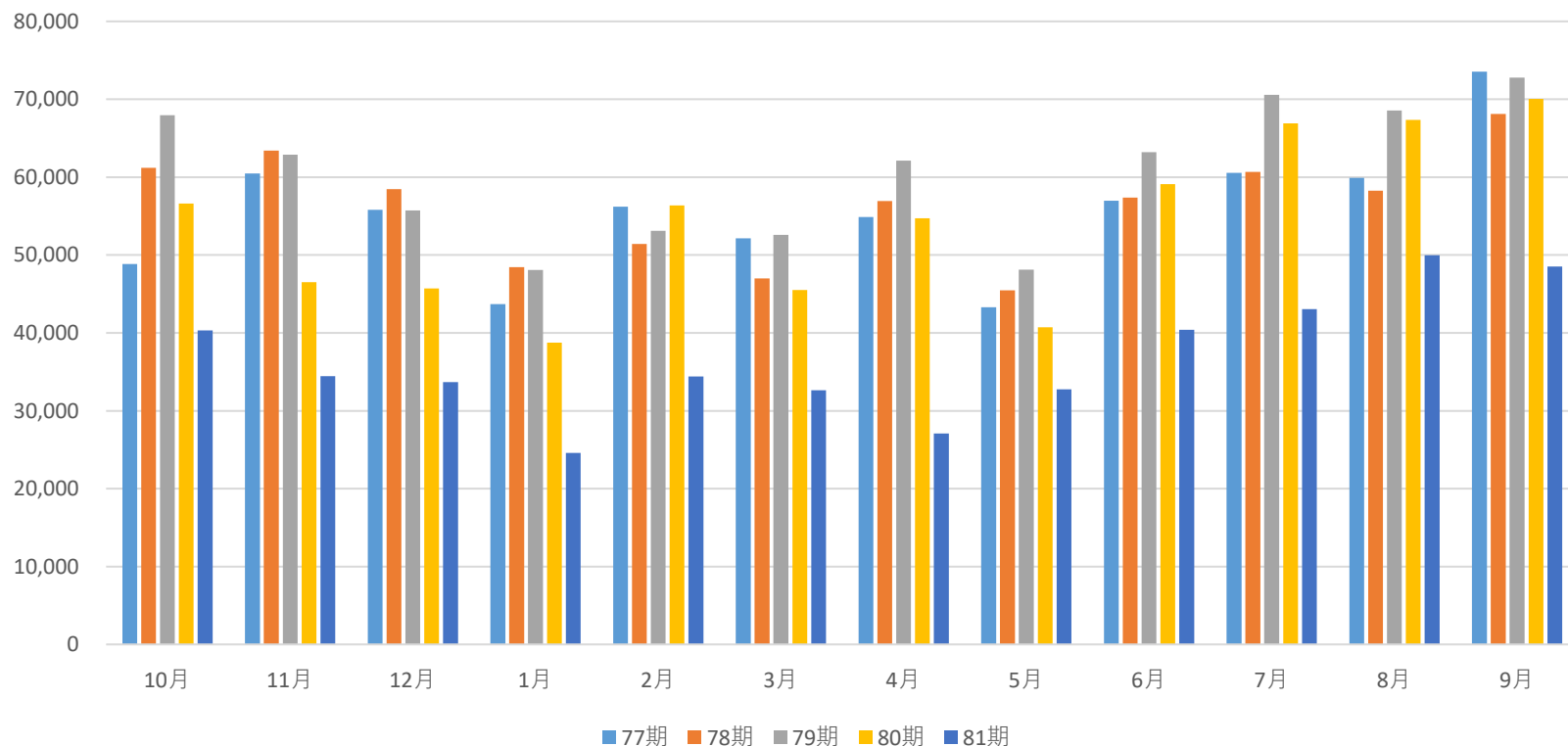
今年度は、新型コロナの感染予防対策により、地域の清掃活動や環境教育、その他イベントへの参加を、制限・自粛している。また、太陽光発電システムについて一年間稼働したため、時期による発電状況を把握できたと考える。発電状況を踏まえた上での電気使用を検討していく。



Ⅵ.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

二酸化炭素排出量(kg-CO2)



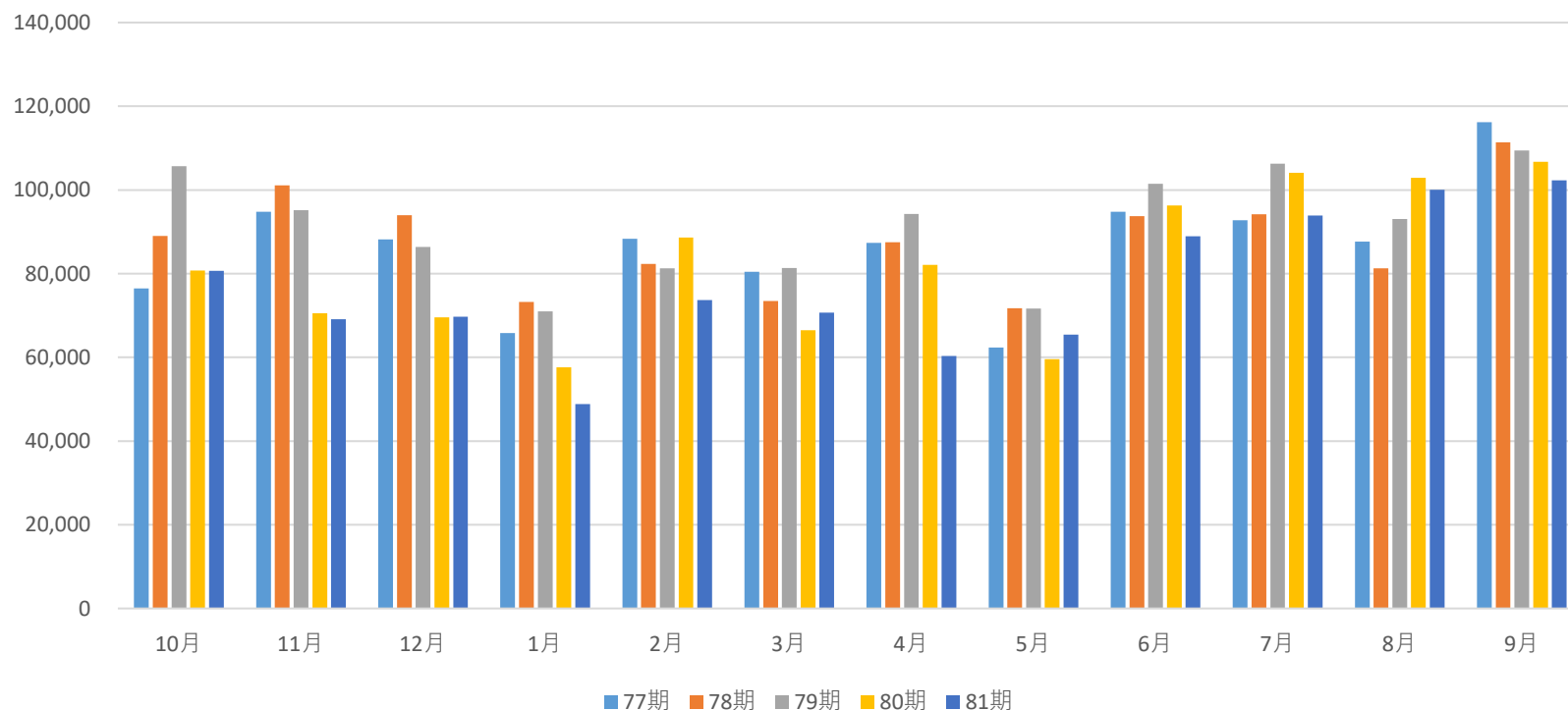
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
77期	48,862	60,486	55,806	43,690	56,192	52,139	54,895	43,288	56,977	60,571	59,922	73,528	666,355
78期	61,199	63,413	58,465	48,433	51,433	46,987	56,921	45,450	57,362	60,692	58,264	68,124	676,743
79期	67,975	62,884	55,741	48,093	53,106	52,588	62,123	48,123	63,202	70,579	68,552	72,799	725,764
80期	56,616	46,523	45,702	38,756	56,388	45,514	54,707	40,712	59,088	66,897	67,356	70,063	648,322
81期	40,320	34,449	33,683	24,574	34,401	32,620	27,069	32,756	40,384	43,060	49,965	48,520	441,801



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

電気使用量 (Kwh)



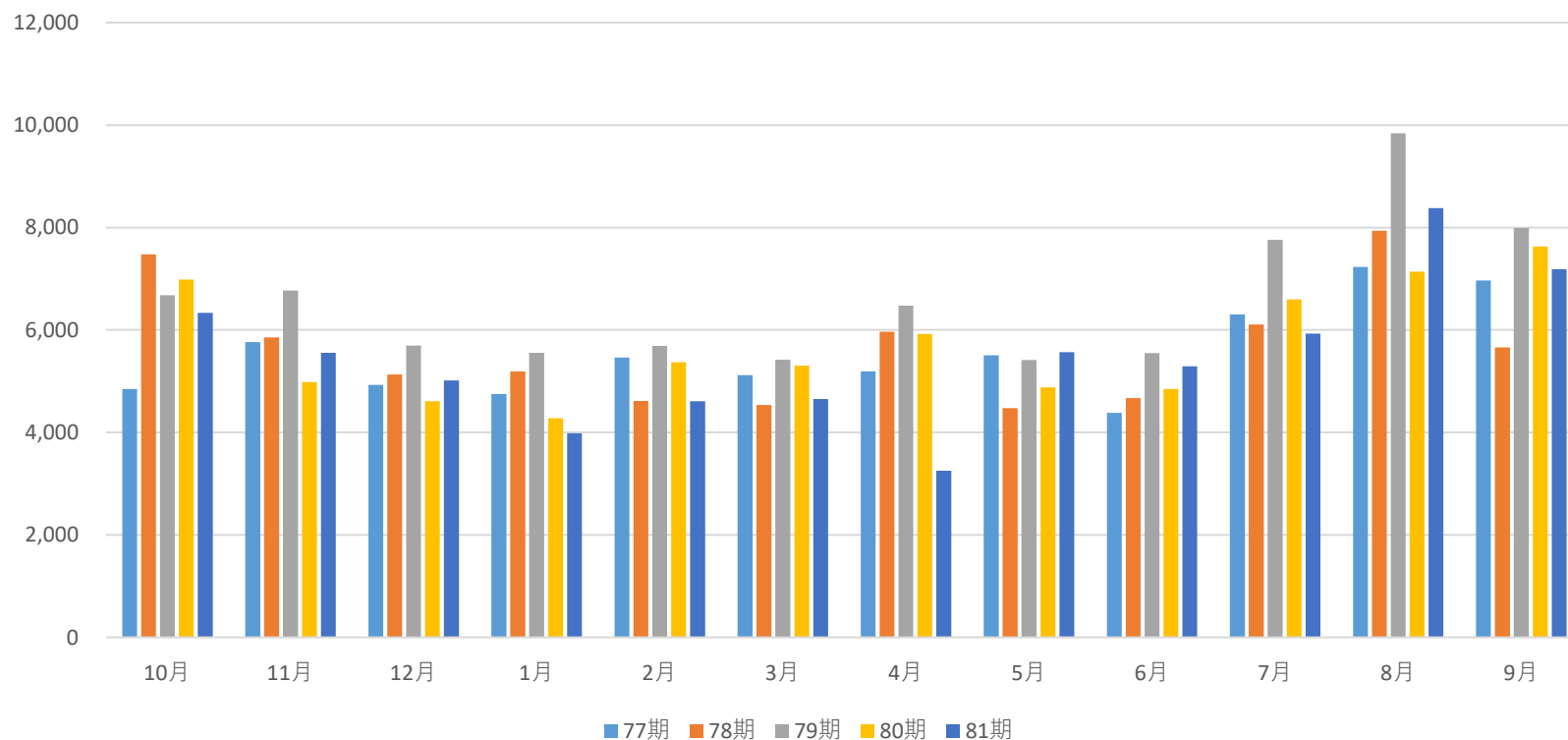
電気使用量(Kwh)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
77期	76,453	94,764	88,207	65,815	88,321	80,417	87,395	62,372	94,774	92,787	87,635	116,215	1,035,155
78期	89,016	101,105	93,982	73,236	82,308	73,497	87,507	71,743	93,723	94,202	81,304	111,423	1,053,046
79期	105,667	95,164	86,370	70,984	81,273	81,323	94,272	71,657	101,475	106,257	93,065	109,421	1,096,928
80期	80,726	70,549	69,527	57,645	88,661	66,488	82,137	59,586	96,268	104,076	102,933	106,745	985,341
81期	80,646	69,088	69,722	48,818	73,718	70,718	60,327	65,404	88,969	93,916	100,020	102,294	923,640



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

都市ガス (m3)



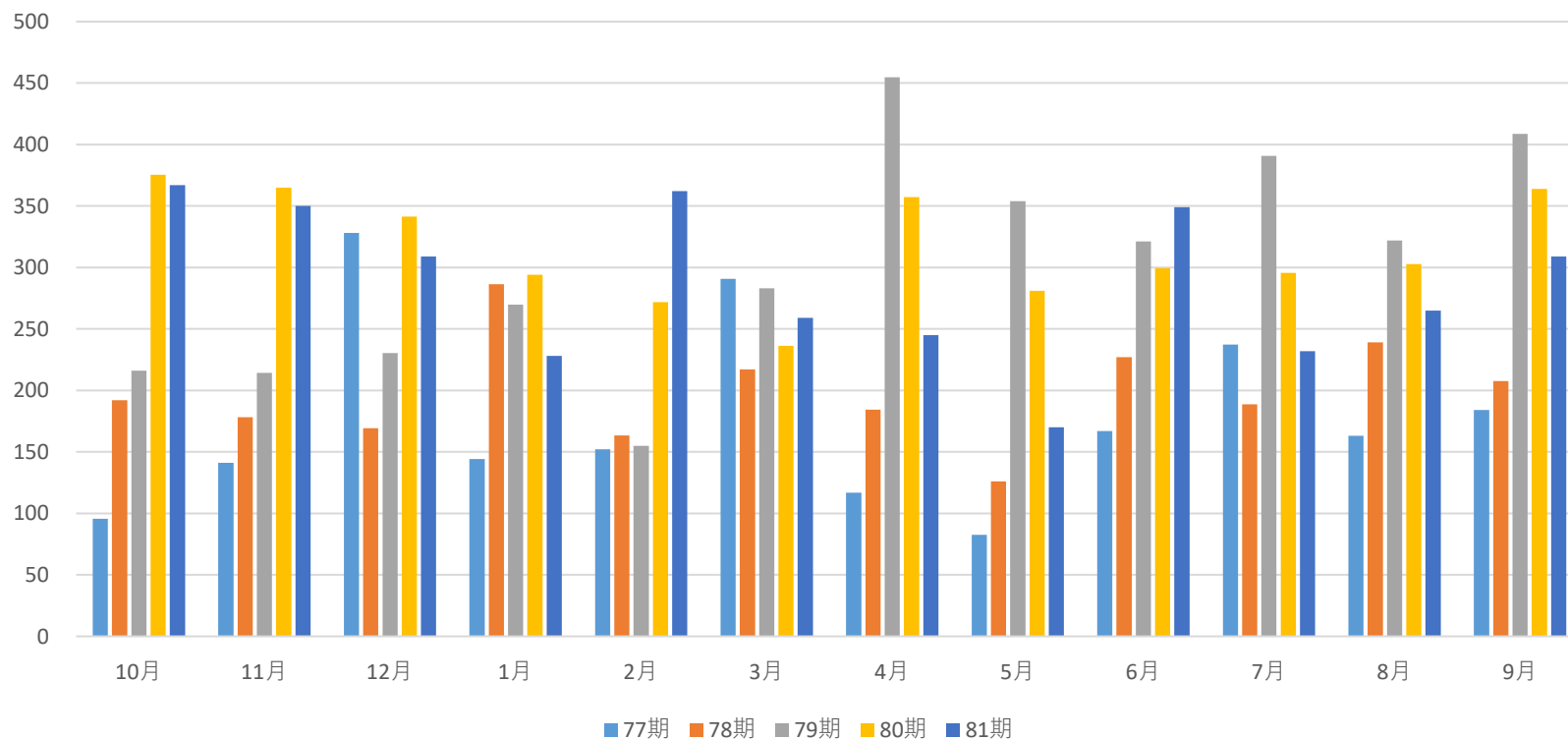
都市ガス (m ³)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
77期	4,846	5,760	4,929	4,747	5,465	5,117	5,190	5,506	4,379	6,305	7,230	6,966	66,440
78期	7,474	5,857	5,132	5,194	4,618	4,535	5,965	4,475	4,672	6,108	7,939	5,659	67,628
79期	6,680	6,767	5,695	5,554	5,689	5,419	6,477	5,412	5,550	7,759	9,840	7,991	78,833
80期	6,984	4,982	4,607	4,277	5,368	5,300	5,924	4,882	4,848	6,595	7,139	7,630	68,536
81期	6,336	5,556	5,011	3,980	4,611	4,651	3,253	5,565	5,291	5,930	8,378	7,188	65,750



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

ガソリン使用量 (L)



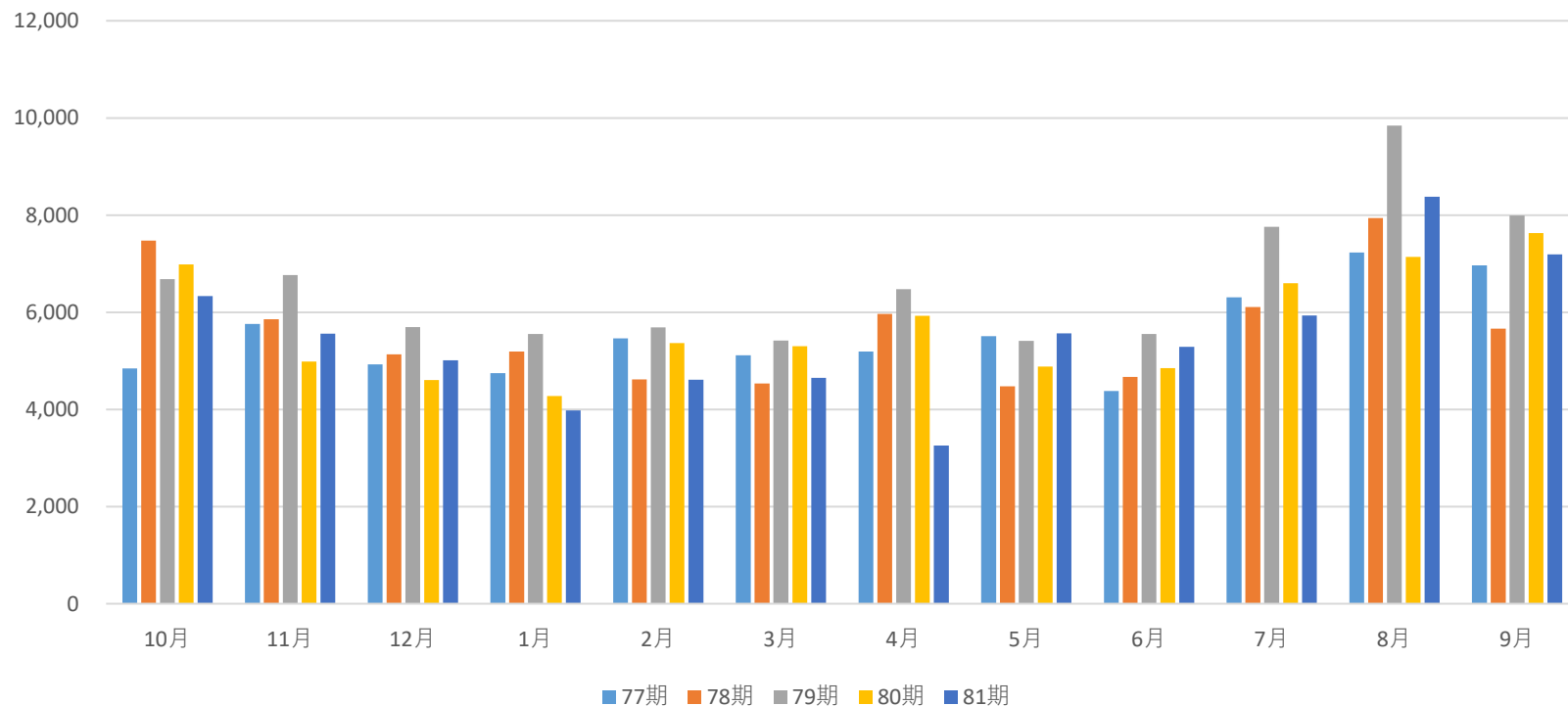
ガソリン(L)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
77期	96	141	328	144	152	291	117	83	167	237	163	184	2,103
78期	192	178	169	286	163	217	184	126	227	189	239	208	2,379
79期	216	214	230	270	155	283	455	354	321	391	322	409	3,620
80期	375	365	341	294	272	236	357	281	299	296	303	364	3,784
81期	367	350	309	228	362	259	245	170	349	232	265	309	3,445



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

軽油使用量 (L)



軽油 (L)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
77期	187	387	353	254	191	297	127	176	158	255	280	295	2,959
78期	281	195	254	172	194	176	182	47	208	240	185	189	2,324
79期	369	331	126	184	151	52	233	110	171	205	259	250	2,442
80期	334	52	264	161	175	287	228	54	179	255	189	44	2,222
81期	272	58	178	103	262	57	51	0	185	195	57	179	1,597

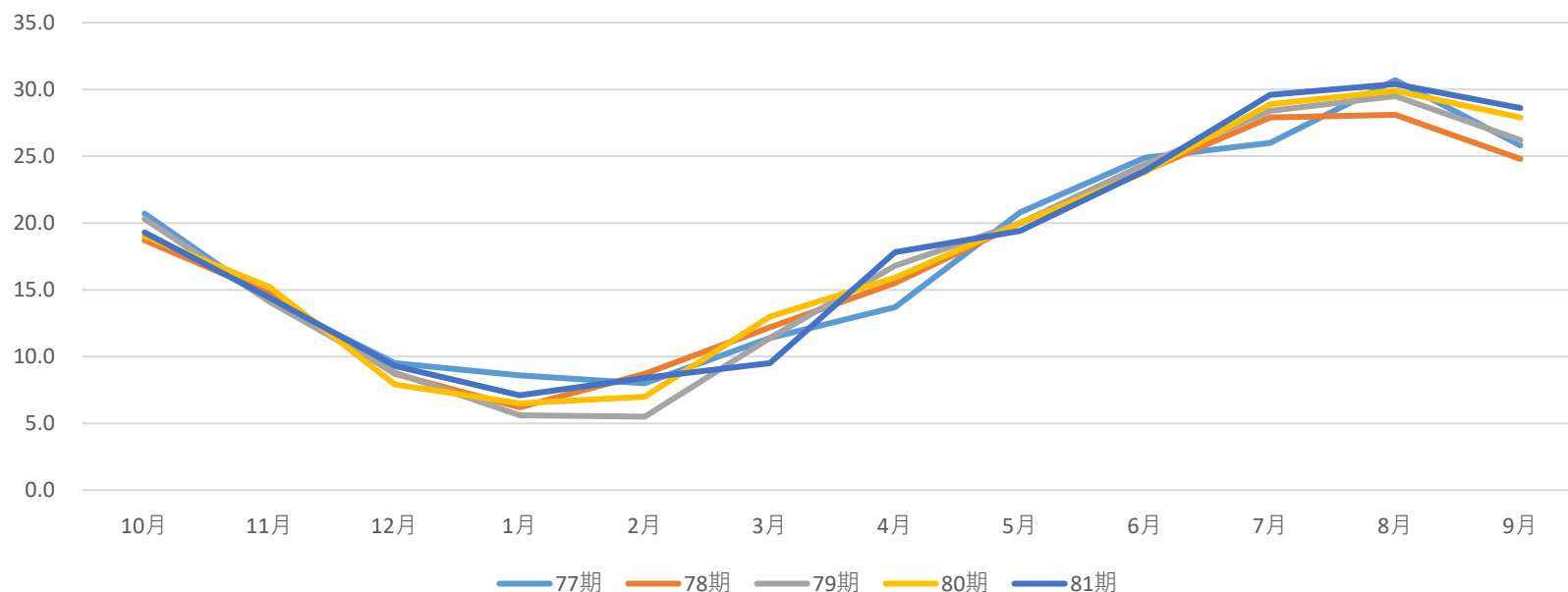


VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

医薬品製造において、製造環境は品質に影響をおよぼすため、恒常的に維持・管理する必要がある。製造環境（温度：18～27℃、湿度：なりゆき（一部の作業室で40～60%で管理））を維持するため、空調システム稼働させており、使用するエネルギーは外気の影響を受ける。

平均気温 (℃)



平均温度 (℃)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
77期	20.7	14.2	9.5	8.6	8.0	11.4	13.7	20.8	24.9	26.0	30.7	25.8
78期	18.7	14.7	8.7	6.2	8.7	12.2	15.5	20.0	23.9	27.9	28.1	24.8
79期	20.3	14.1	8.8	5.6	5.5	11.4	16.8	20.0	24.4	28.4	29.5	26.2
80期	19.0	15.2	7.9	6.5	7.0	13.0	15.9	20.0	23.8	28.9	29.9	27.9
81期	19.3	14.4	9.3	7.1	8.4	9.5	17.8	19.4	23.9	29.6	30.4	28.6



VI.環境経営目標の実績

若狭工場

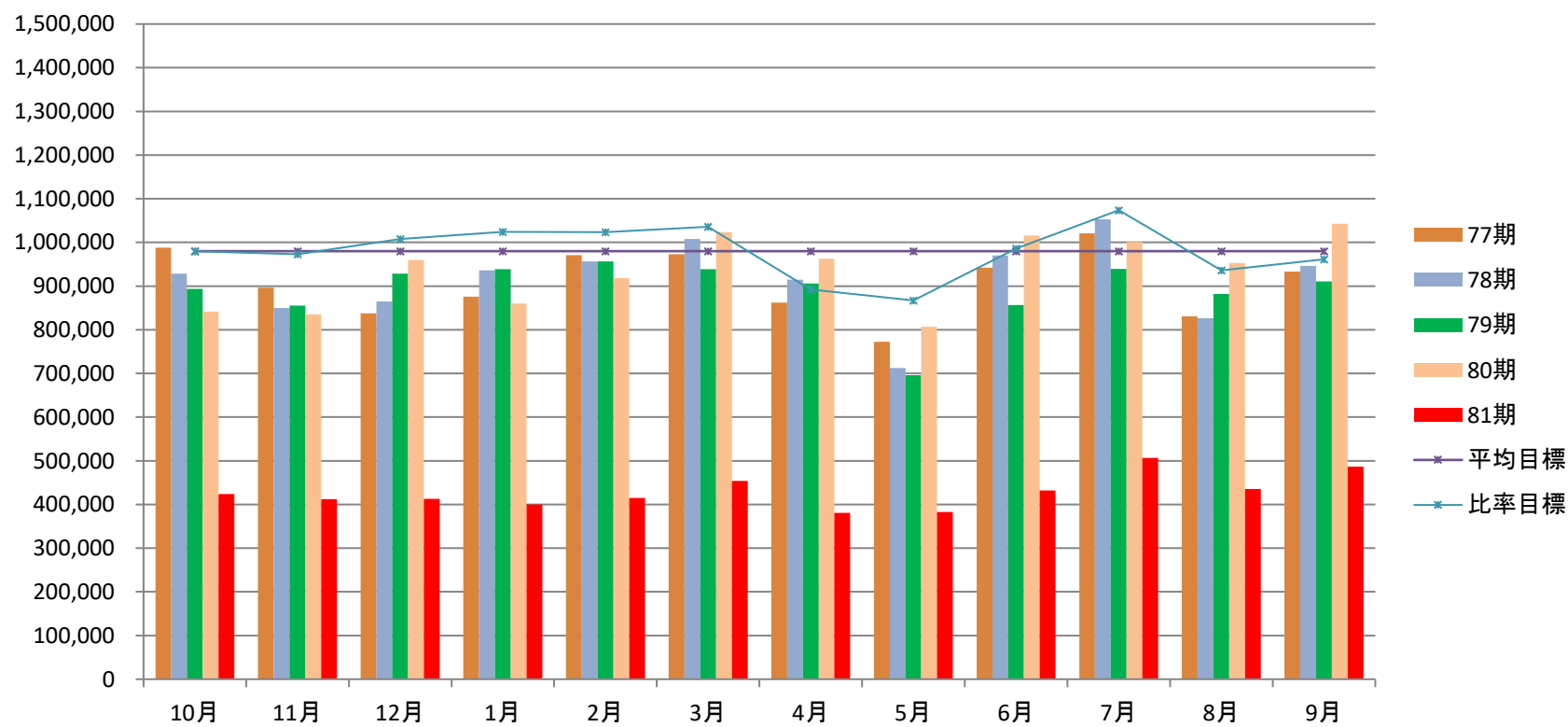
81期 原単位	2023 年			2024 年											
	稼働日数	10月 21日 1日	11月 21日 0日	12月 20日 0日	1月 19日 1日	2月 20日 1日	3月 20日 -2日	4月 20日 0日	5月 20日 2日	6月 20日 -2日	7月 22日 1日	8月 17日 -1日	9月 20日 -1日	合計 240日	
二酸化炭素総排出量 (kg-CO2)	424,083	412,528	412,807	400,191	414,906	454,231	380,631	383,159	432,180	506,826	435,744	486,768	5,144,054		
前年度比(※赤字:悪化)	50.4%	49.4%	43.0%	46.5%	45.2%	44.4%	39.5%	47.5%	42.5%	50.6%	45.7%	46.7%	45.8%		
平均目標値比(※赤字:超過)	43.7%	42.5%	42.6%	41.3%	42.8%	46.8%	39.2%	39.5%	44.5%	52.2%	44.9%	50.2%			
比率目標値比(※赤字:超過)	18.5%	17.6%	18.8%	16.2%	16.0%	17.6%	16.4%	16.6%	22.4%	30.0%	27.2%	28.0%			
電気使用量(Kwh)	936,036	847,587	786,923	782,823	798,575	864,467	775,455	851,525	1,009,583	1,217,927	1,064,945	1,172,124	11,107,970		
前年度比(※赤字:悪化)	103.4%	102.1%	99.1%	98.3%	107.4%	106.1%	97.9%	103.9%	100.2%	105.2%	98.7%	106.1%	102.4%		
受電合計	883,143	812,112	755,932	763,722	768,048	822,392	706,706	775,535	933,913	1,147,077	997,222	1,110,348	10,476,150		
既存棟	234,062	207,243	196,917	195,000	193,263	202,836	186,607	197,675	243,256	282,348	231,189	283,834	2,654,230		
前年度比(※赤字:悪化)	97.7%	94.8%	93.6%	85.3%	101.7%	111.6%	102.2%	103.6%	97.5%	99.2%	84.1%	103.3%	97.4%		
E・F・G・J棟 (合計)	701,974	640,344	590,006	587,823	605,312	661,631	588,848	653,850	766,327	935,579	833,756	888,290	8,453,740		
前年度比(※赤字:悪化)	105.4%	104.7%	101.1%	103.4%	109.4%	104.5%	96.7%	103.9%	101.1%	107.1%	103.7%	107.0%	104.1%		
・受電分	649,081	604,869	559,015	568,722	574,785	619,556	520,099	577,860	690,657	864,729	766,033	826,514	7,821,920		
前年度比(※赤字:悪化)	105.1%	105.3%	100.4%	103.0%	109.4%	109.0%	95.4%	104.8%	99.6%	109.1%	102.9%	107.5%	104.4%		
・太陽光発電	52,893	35,475	30,991	19,101	30,527	42,075	68,749	75,990	75,670	70,850	67,723	61,776	631,820		
前年度比(※赤字:悪化)	108.4%	95.4%	114.5%	120.5%	109.3%	65.3%	107.2%	97.6%	116.8%	87.5%	113.6%	100.9%	100.3%		
自給率	7.5%	5.5%	5.3%	3.2%	5.0%	6.4%	11.7%	11.6%	9.9%	7.6%	8.1%	7.0%	7.5%		
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	274,657	252,567	235,095	237,518	238,863	255,764	219,786	241,191	290,447	356,741	310,136	345,318	3,258,083		
(係数:0.311) 総排出量との比率	64.8%	61.2%	57.0%	59.4%	57.6%	56.3%	57.7%	62.9%	67.2%	70.4%	71.2%	70.9%	63.3%		
LPG使用量(kg)	49,611	53,075	59,050	54,015	58,507	65,946	53,481	47,174	47,055	49,882	41,709	46,892	626,396		
前年度比(※赤字:悪化)	131.0%	131.8%	112.3%	126.0%	114.4%	111.4%	97.5%	118.0%	94.2%	117.3%	102.4%	98.1%	111.9%		
既存棟	18,933	19,511	20,656	19,997	20,830	22,457	18,170	17,544	16,760	17,272	13,157	16,090	221,376		
前年度比(※赤字:悪化)	180.7%	172.8%	160.7%	165.5%	121.4%	111.3%	99.6%	115.3%	93.5%	113.4%	90.7%	97.6%	121.9%		
E・F・G・J棟	30,678	33,564	38,393	34,019	37,677	43,489	35,312	29,630	30,294	32,611	28,551	30,802	405,020		
前年度比(※赤字:悪化)	111.9%	115.8%	96.6%	110.5%	110.9%	111.4%	96.5%	119.6%	94.7%	119.5%	108.9%	98.3%	107.1%		
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	148,833	159,225	177,149	162,046	175,709	197,837	160,443	141,522	141,164	149,647	125,127	140,675	1,879,377		
総排出量との比率	35.1%	38.6%	42.9%	40.5%	42.3%	43.6%	42.2%	36.9%	32.7%	29.5%	28.7%	28.9%	36.5%		
水使用量(m)	3,217	3,479	3,137	3,146	3,624	3,403	3,458	2,664	3,801	3,334	3,597	3,963	40,823		
前年度比(※赤字:悪化)	128.9%	138.4%	115.5%	135.6%	94.4%	119.2%	111.7%	117.9%	103.3%	89.2%	105.6%	104.8%	111.2%		
既存棟	834	914	800	797	972	896	940	737	1,146	975	1,152	1,388	11,551		
前年度比(※赤字:悪化)	147.6%	231.4%	157.5%	208.1%	127.6%	157.5%	138.6%	160.9%	134.8%	71.0%	125.1%	136.9%	136.3%		
E棟	1,135	1,216	1,215	1,215	1,344	1,397	1,227	969	1,251	1,115	1,290	1,276	14,650		
前年度比(※赤字:悪化)	127.1%	120.2%	103.1%	105.3%	72.7%	105.3%	98.6%	111.4%	116.0%	100.3%	96.6%	88.0%	101.0%		
J棟	1,248	1,349	1,122	1,134	1,308	1,110	1,291	958	1,404	1,244	1,155	1,299	14,622		
前年度比(※赤字:悪化)	120.2%	122.0%	109.0%	144.8%	106.3%	115.6%	109.9%	102.8%	80.1%	99.5%	100.5%	98.7%	106.6%		
平均外気温度(℃)	17.1	13.2	8.2	5.3	6.9	7.3	-	18.3	23.3	28.0	28.6	27.4			
(前年度比)	0.2	-0.4	1.8	1.5	1.7	-3.8	#VALUE!	-0.4	0.6	-0.1	-1.3	0.9			
平均湿度(%)	87	86	85	89	87	83	-	81	84	90	89	87			
(前年度比)	-1	-3	1	-3	3	6	#VALUE!	0	-5	5	8	-1			
出荷錠数(千錠)	220,650	185,705	222,870	146,700	201,132	151,199	206,519	141,658	188,042	145,961	161,437	152,382	2,124,253		
前年度比(※赤字:悪化)	118.5%	99.2%	132.6%	92.0%	113.6%	93.0%	105.9%	86.5%	105.8%	88.6%	83.5%	88.1%	100.8%		
原単位 (kg-CO2/千錠)	1,922	2,221	1,852	2,728	2,063	3,004	1,843	2,705	2,298	3,472	2,699	3,194	2,422		
前年度比(※赤字:悪化)	42.5%	49.8%	32.5%	50.6%	39.8%	47.7%	37.3%	54.9%	40.2%	57.2%	54.7%	53.0%	45.5%		



VI.環境経営目標の実績

若狭工場

二酸化炭素排出量



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
稼働日数	21日 1日	21日 0日	20日 0日	19日 1日	20日 1日	20日 -2日	20日 0日	20日 2日	20日 -2日	22日 1日	17日 -1日	20日 -1日	240日
二酸化炭素総排出量 (kg-CO2)	424,083	412,528	412,807	400,191	414,906	454,231	380,631	383,159	432,180	506,826	435,744	486,768	5,144,054
前年度比(※赤字:悪化)	50.4%	49.4%	43.0%	46.5%	45.2%	44.4%	39.5%	47.5%	42.5%	50.6%	45.7%	46.7%	45.8%
平均目標値比(※赤字:超過)	43.7%	42.5%	42.6%	41.3%	42.8%	46.8%	39.2%	39.5%	44.5%	52.2%	44.9%	50.2%	
比率目標値比(※赤字:超過)	18.5%	17.6%	18.8%	16.2%	16.0%	17.6%	16.4%	16.6%	22.4%	30.0%	27.2%	28.0%	

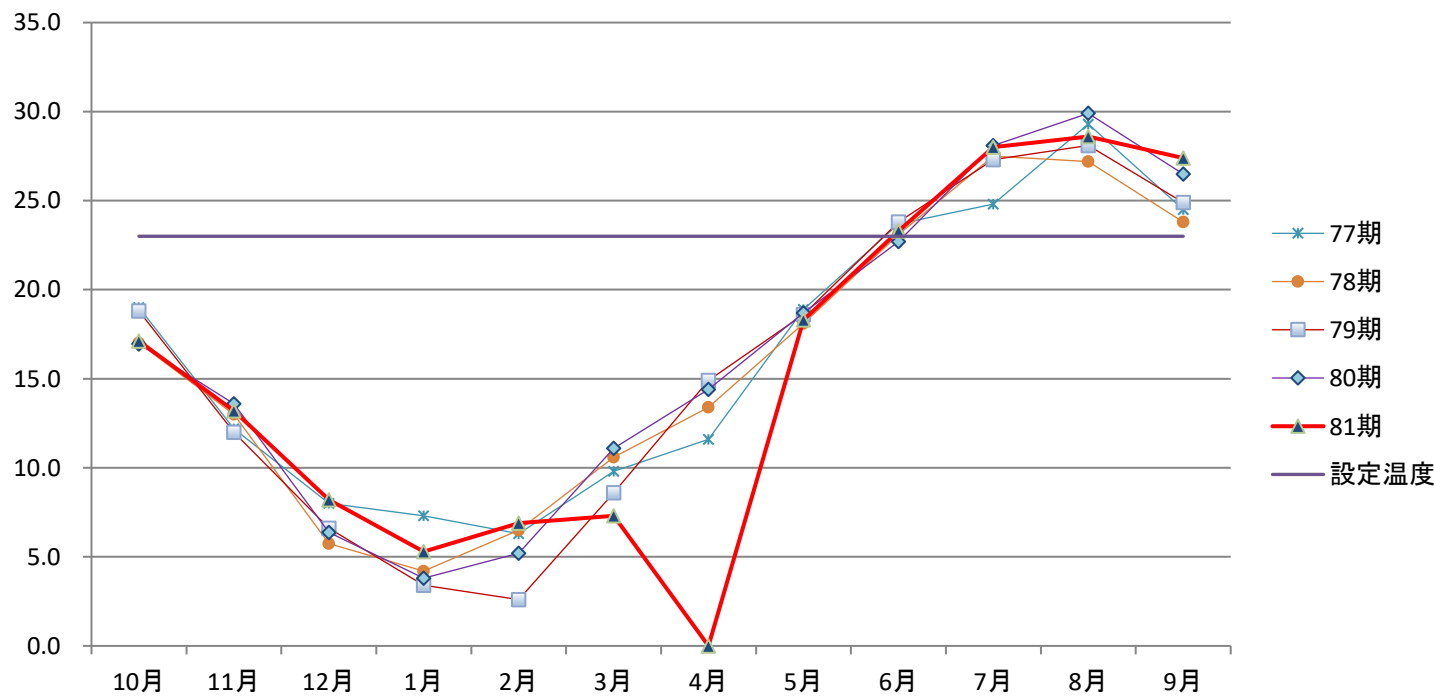


VI.環境経営目標の実績

若狭工場

医薬品製造において、製造環境は品質に影響をおよぼすため、恒常的に維持・管理する必要がある。製造環境（温度：23℃（±3℃）、湿度：50%（±20%））を維持するため、空調システムを24時間稼働させており、使用するエネルギーは外気の影響を受けるため、平均温湿度の確認を行った。前年と比較して、冬場は若干高め（例年通り）で、夏場は若干低めの傾向であった。※4月は機器の故障のため、データ取得できなかった

平均温度



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均外気温度(℃)	17.1	13.2	8.2	5.3	6.9	7.3	-	18.3	23.3	28.0	28.6	27.4
(前年度比)	0.2	-0.4	1.8	1.5	1.7	-3.8	#VALUE!	-0.4	0.6	-0.1	-1.3	0.9
平均湿度(%)	87	86	85	89	87	83	-	81	84	90	89	87
(前年度比)	-1	-3	1	-3	3	6	#VALUE!	0	-5	5	8	-1

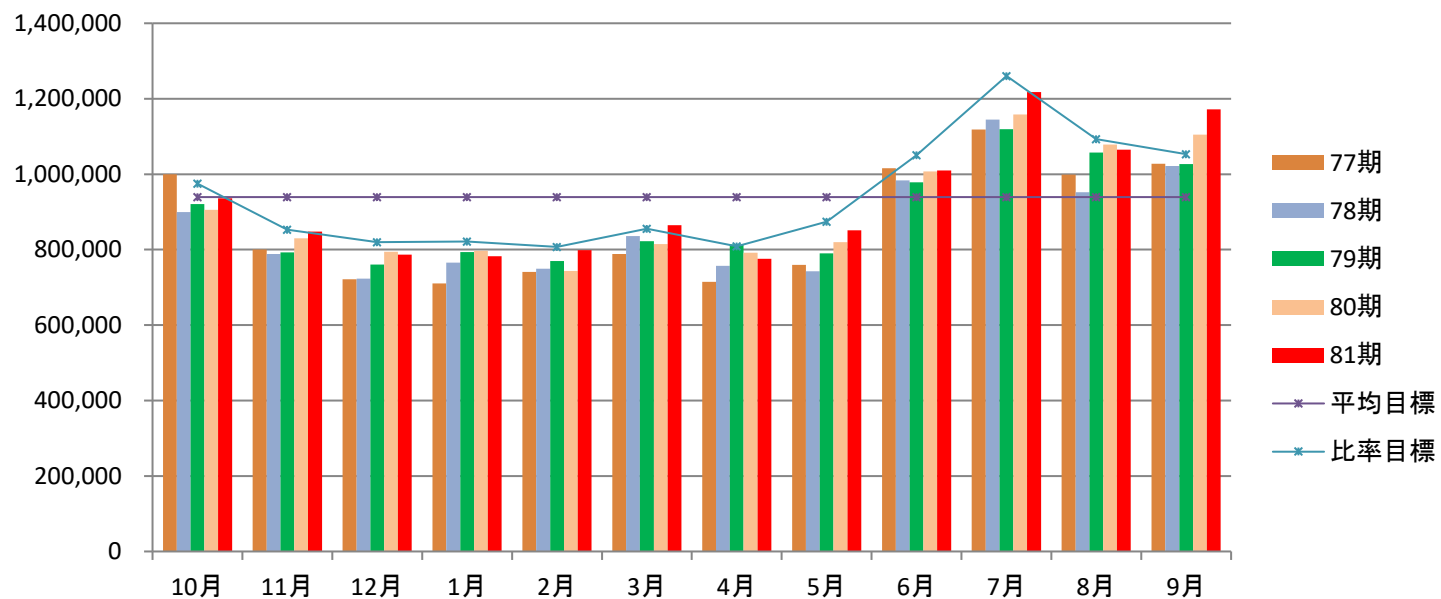


VI.環境経営目標の実績

若狭工場

電気の使用量は、外気温度が高い6月～10月が多く、低い11月～5月が少ない傾向である。F増築倉庫棟の稼働（3月～）により、電気使用量が増えた。

電気使用量(Kwh)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
電気使用量(Kwh)	936,036	847,587	786,923	782,823	798,575	864,467	775,455	851,525	1,009,583	1,217,927	1,064,945	1,172,124	11,107,970
前年度比(※赤字:悪化)	103.4%	102.1%	99.1%	98.3%	107.4%	106.1%	97.9%	103.9%	100.2%	105.2%	98.7%	106.1%	102.4%
受電合計	883,143	812,112	755,932	763,722	768,048	822,392	706,706	775,535	933,913	1,147,077	997,222	1,110,348	10,476,150
既存棟	234,062	207,243	196,917	195,000	193,263	202,836	186,607	197,675	243,256	282,348	231,189	283,834	2,654,230
前年度比(※赤字:悪化)	97.7%	94.8%	93.6%	85.3%	101.7%	111.6%	102.2%	103.6%	97.5%	99.2%	84.1%	103.3%	97.4%
E・F・G・J棟(合計)	701,974	640,344	590,006	587,823	605,312	661,631	588,848	653,850	766,327	935,579	833,756	888,290	8,453,740
前年度比(※赤字:悪化)	105.4%	104.7%	101.1%	103.4%	109.4%	104.5%	96.7%	103.9%	101.1%	107.1%	103.7%	107.0%	104.1%
・受電分	649,081	604,869	559,015	568,722	574,785	619,556	520,099	577,860	690,657	864,729	766,033	826,514	7,821,920
前年度比(※赤字:悪化)	105.1%	105.3%	100.4%	103.0%	109.4%	109.0%	95.4%	104.8%	99.6%	109.1%	102.9%	107.5%	104.4%
・太陽光発電	52,893	35,475	30,991	19,101	30,527	42,075	68,749	75,990	75,670	70,850	67,723	61,776	631,820
前年度比(※赤字:悪化)	108.4%	95.4%	114.5%	120.5%	109.3%	65.3%	107.2%	97.6%	116.8%	87.5%	113.6%	100.9%	100.3%
自給率	7.5%	5.5%	5.3%	3.2%	5.0%	6.4%	11.7%	11.6%	9.9%	7.6%	8.1%	7.0%	7.5%

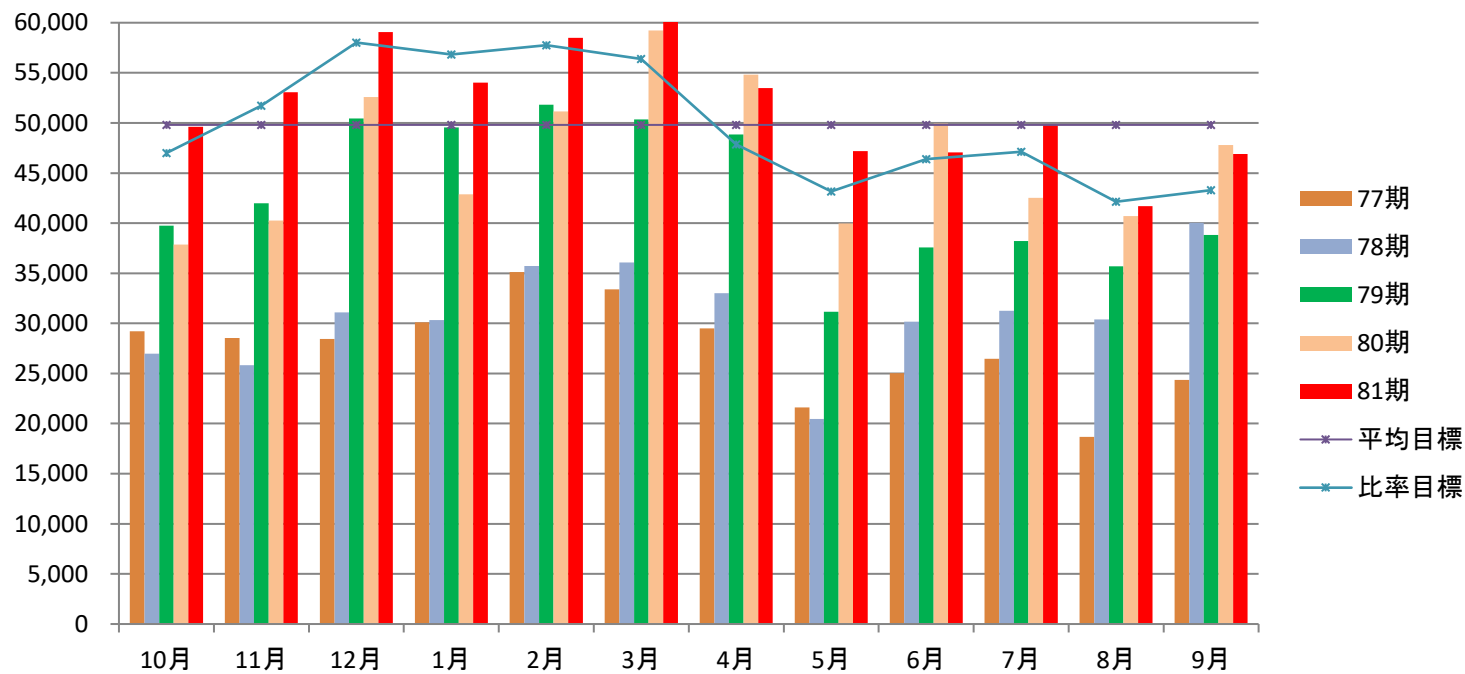


VI.環境経営目標の実績

若狭工場

LPGの使用量は、外気温度が低い12月～4月が多く、高い5月～10月が少なくなる。G棟の空調機を電気からLPG（GHP）に更新したため、増加した。

LPG使用量(kg)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
LPG使用量(kg)	49,611	53,075	59,050	54,015	58,507	65,946	53,481	47,174	47,055	49,882	41,709	46,892	626,396
前年度比(※赤字:悪化)	131.0%	131.8%	112.3%	126.0%	114.4%	111.4%	97.5%	118.0%	94.2%	117.3%	102.4%	98.1%	111.9%
既存棟	18,933	19,511	20,656	19,997	20,830	22,457	18,170	17,544	16,760	17,272	13,157	16,090	221,376
前年度比(※赤字:悪化)	180.7%	172.8%	160.7%	165.5%	121.4%	111.3%	99.6%	115.3%	93.5%	113.4%	90.7%	97.6%	121.9%
E・F・G・J棟	30,678	33,564	38,393	34,019	37,677	43,489	35,312	29,630	30,294	32,611	28,551	30,802	405,020
前年度比(※赤字:悪化)	111.9%	115.8%	96.6%	110.5%	110.9%	111.4%	96.5%	119.6%	94.7%	119.5%	108.9%	98.3%	107.1%



VI.環境経営目標の実績

本社・大阪工場

- ①毎月の6S委員会において、環境活動状況の共有や教育訓練を実施
- ②PTPシートリサイクル対象品の保管場所を確保する為、圧縮機の導入に向けてテストを実施
- ③節電、節水に関する啓蒙活動の実施



VI.環境経営目標の実績

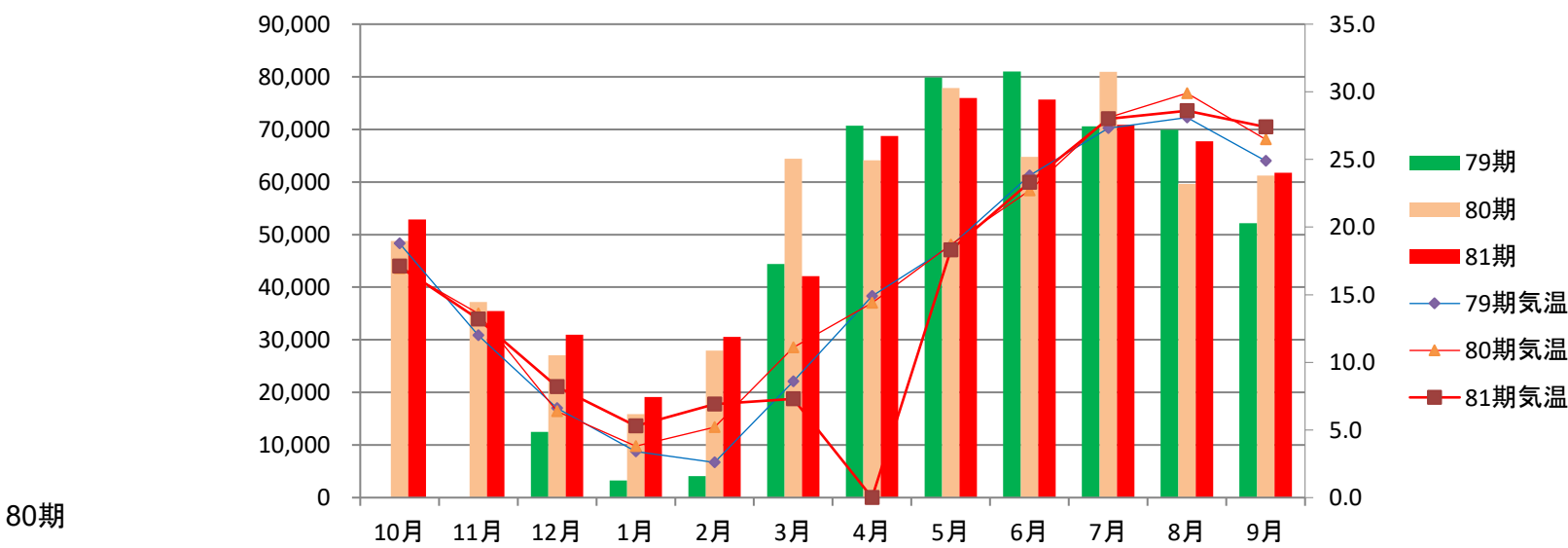
若狭工場

①太陽光発電システムの発電状況

（電力削減、デマンドピーク抑制を目的とする再生可能エネルギー）

81期は、冬季の天候が良く積雪が少なかったため発電があった。以外の月は、ほぼ例年通りの天候での発電であった。

発電量(Kwh)



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
電気使用量 (Kwh)	936,036	847,587	786,923	782,823	798,575	864,467	775,455	851,525	1,009,583	1,217,927	1,064,945	1,172,124	11,107,970
・太陽光発電	52,893	35,475	30,991	19,101	30,527	42,075	68,749	75,990	75,670	70,850	67,723	61,776	631,820
前年度比 (※赤字:悪化)	108.4%	95.4%	114.5%	120.5%	109.3%	65.3%	107.2%	97.6%	116.8%	87.5%	113.6%	100.9%	100.3%
自給率	7.5%	5.5%	5.3%	3.2%	5.0%	6.4%	11.7%	11.6%	9.9%	7.6%	8.1%	7.0%	7.5%



VI.環境経営目標の実績

若狭工場

①G棟の空調機を電気からLPG（GHP：ガスヒートポンプ）への変更



②F増築倉庫棟が3月に竣工（自動倉庫、事務所・会議室の増築）





VI.環境経営目標の実績

大阪工場

6S委員会における教育

6S委員会にてエコアクション21の取り組み状況を報告し意識づけを行っている。





Ⅵ.環境経営目標の実績

若狭工場

新入社員に対する教育

新入社員に対して、エコアクション21の取り組みについて教育を実施
(2024年05月10日)





VII.環境経営計画の取組結果とその評価

本社・大阪工場

目標	具体的取組内容	評価	
		2023年10月～2024年03月	2024年04月～2024年09月
二酸化炭素 排出量の削減	電力の削減(事務系) ・空調温度管理(夏:26℃、冬:20℃) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・照明の消灯による節電(昼休み、未使用時) ・節電意識の徹底を図る ・機器設備の運転効率維持(点検・整備) ・工場設備運用の見直し(ムダの削減) ・工場設備の見直し検討(運転効率化)	○	○
	都市ガスの削減 ・定期点検・整備により運転効率の低下防止 ・燃料効率の悪化防止(蒸気配管メンテナンス) ・空調運転の効率化による燃料削減	○	○
	ガソリンの削減(社用車) ・公共交通機関の利用推進 ・社用車のエコドライブの徹底 ・燃料効率の悪化防止、効率の向上	○	○
廃棄物廃棄量 の削減	分別徹底による、再利用・再生利用、削減に努める	○	○
	産業廃棄物の再生利用化、熱回収化、再資源化に努める	○	○
	生産時のロスを減らす	○	○
水使用量の削減	排水(工場・生活)の削減に努める	○	○
	こまめに節水に努める(流しっ放しをしない)	○	○
	節水を促す啓蒙表示を行なう	○	○
	生産機器・備品の洗浄方法の見直しを検討し節水に努める	○	○
フロン排出抑制	特定フロン使用機器の更新に努める	○	○
	法定点検の実施:定期的に点検・整備を行い、運転状態を良好に維持する	○	○
5Sの推進	整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(5S)の推進	○	○
その他	その他、環境に関する情報の収集	○	○
取組課題	環境経営活動状況について委員会内で情報共有を活発にする	○	○
	社員の環境への意識高揚のために定期的な研修会や会議を行う	○	○



VII.環境経営計画の取組結果とその評価

若狭工場

目標	具体的取組内容	評価	
		2023年10月～2024年03月	2024年04月～2024年09月
二酸化炭素 排出量の削減	電力の削減(事務系) ・空調温度管理(夏:26℃、冬:20℃) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・照明の消灯による節電(昼休み、未使用時) ・節電意識の徹底を図る	○	○
	電力の削減(製造系) ・買い替え時、省エネタイプの機器導入 ・機器設備の運転効率維持(点検・整備) ・工場の運用方法見直し検討(運転スリム化) ・工場設備の見直し検討(運転効率化)	△ (F増築棟の竣工により 電気の使用量が増加)	○ (G棟の空調を電気から LPGに変更)
	LPGの削減 ・ボイラ運転の効率化による消費抑制 ・燃料効率の悪化防止(蒸気配管メンテナンス) ・工場運用の効率化による燃料削減	△	× (G棟の空調を電気から LPGに変更したことにより 増加)
	ガソリンの削減(社用車) ・社用車の省エネ運転の推進 ・ディーゼルエンジン車のエコドライブ徹底 ・燃料効率の悪化防止(定期整備) ・省燃費に有効な整備の実施	△	△
廃棄物廃棄量 の削減	分別徹底による、再利用・再生利用に努める	○	○
	産業廃棄物の熱回収化・資源化に努める	△	△
	生産時のロス減らす	○	○
水使用量の削減	排水(工場・生活)の削減に努める	○	○
	こまめな節水に努める(流しっ放しをしない)	○	○
	節水を促す啓蒙表示を行なう	○	○
フロン排出抑制	特定フロン使用機器の更新に努める	△	△
5Sの推進	しつけ(挨拶を行なう)から実施する	○	○
教育訓練	環境意識の高揚のため定期的に実施する	△	○



VIII. 次年度の環境経営計画

本社・大阪工場

I. 数値目標を達成するための取組

1. 二酸化炭素排出の削減計画

(1) 電力の削減

・事務系：(全社員)

- ① エアコンは、室内温度夏26℃、冬は20℃を原則とする。(設定値)
- ② 買い替え時には、高効率機器を導入する。
- ③ 昼休みの照明消灯による節電、未使用時の消灯、パソコンは極力待機電力とする。
- ④ 節電に対する啓蒙表示を行い、省エネ意識の徹底を図る。
- ⑤ 機器設備について、定期的に点検・整備を行ない、運転効率が低下しないよう維持する。
- ⑥ 工場設備運用は生産に見合ったものでムダが無い見直しを行う。
- ⑦ 工場設備の運転効率化が可能であるか、工場設備の見直しを検討する。

(2) 都市ガスの削減：(全社員)

- ① 機器設備について、定期的に点検・整備を行い、運動効率が低下しないよう維持する。
- ② メンテナンスを実施し、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。
- ③ 負荷にあった効率的な空調運転を実施することで燃料の削減に努める。

(3) ガソリン、軽油の削減：(社用車運転者)

- ① 社用車を控えて公共交通機関の利用を推進
- ② 社用車のエコドライブの徹底
- ③ 社用車の定期的整備の実施、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。



VIII.次年度の環境経営計画

本社・大阪工場

2. 廃棄物排出量の削減:(全社員)
 - ①分別を徹底する、再利用・再生利用の比率を上げ、削減に努める。
 - ②産業廃棄物:金属クズ、廃プラスチック、廃油の分別・再生利用化・熱回収化・資源化に努める。
 - ③生産時のロスを減らすことで廃棄物の削減に努める。
3. 水使用量の削減(節水の取組):(全社員)
 - ①製造排水及び生活排水の削減に努める
 - ②こまめに節水に努める(工場内にも表示を行う)。洗浄時に流しっ放しで洗浄しない。
 - ③節水を促す為の啓蒙表示をする。
 - ④生産機器・備品の洗浄方法の見直しを検討し節水に努める。
4. フロン排出抑制の推進:(製造部施設G)
 - ①機器更新により特定フロンを利用している機器を撤廃する。
 - ②法定点検の実施:定期的に点検・整備を行い、運転状態を良好に維持する。
5. 整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(5S)の推進:(6S委員会)
 - ①地域のボランティア活動を積極的に行う(全社員)。
6. その他:(事務局)
 - ①その他、環境に関する情報の収集。
 - ②環境目標に関する達成、未達成の原因分析とフィードバックを行う。



VIII.次年度の環境経営計画

本社・大阪工場

Ⅱ. その他の取り組み事項(6S委員会)

1. 環境方針をよく理解し、環境経営活動状況について委員会内で情報共有を活発にする。
2. 社員の環境への意識高揚のために定期的な研修会や会議を行う。
3. 緊急事態に対する訓練を行う(都市ガスの漏洩、排水処理設備からの処理水のオーバーフロー等
想定した訓練についても検討する)



VIII.次年度の環境経営計画

若狭工場

I. 数値目標を達成するための取組

1. 二酸化炭素排出の削減計画

(1) 電力の削減

・事務系 : (全社員)

- ① エアコンは、室内温度夏26℃、冬は20℃を原則とする。(設定値)
- ② 買い替え時には、省エネタイプの機器を導入する。
- ③ 昼休みの照明消灯による節電、未使用時の消灯、パソコンは極力待機電力とする。
- ④ 省エネ啓蒙をおこない節電意識の徹底を図る。

・製造系 : (製造部、施設課)

- ① 買い替え時には、省エネタイプの機器を導入する。
- ② 機器設備について、定期的に点検・整備を行ない、運転効率が低下しないよう維持する。
- ③ 工場設備運用のスリム化が可能であるか、工場設備運用方法の見直しを検討する。
- ④ 工場設備の運転効率化が可能であるか、工場設備の見直しを検討する。
- ⑤ デマンドピークを抑制するため、一部作業工程の夜間シフトを検討する。
- ⑥ 太陽光発電システムの発電状況とデマンドピークを確認し、効率向上を検討する。
また、BCPの取り組みとして、無停電電源装置の導入を検討する。

(2) LPGの削減 : (施設課施設G)

- ① 効率的にボイラの運転をおこない消費を抑制する。
- ② 蒸気配管などのメンテナンスを実施し、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。
- ③ 負荷にあった効率的な空調運転を実施することで燃料の削減に努める。



VIII.次年度の環境経営計画

若狭工場

(3)ガソリンの削減：(社用車運転者)

- ①社用車の省エネ運転の推進する。
- ②ディーゼルエンジンの社用車(フォークリフト含む)のエコドライブの徹底する。
- ③社用車の定期的整備の実施、燃料効率の悪化防止に努め、効率の向上を図る。
- ④社用車に省燃費に有効なエコ整備・エコ車検・エンジン洗浄を実施する。

2. 廃棄物排出量の削減：(製造部)

- ①分別を徹底する、再利用・再生利用の比率を上げ、削減に努める。
- ②産業廃棄物: 金属クズ、廃プラスチック、廃バッテリー、廃タイヤ、廃油の分別・再生利用化・熱回収化・資源化に努める。
- ③生産時のロスを減らすことで廃棄物の削減に努める。

3. 水使用量(節水の取組)：(全社員)

- ①製造排水及び生活排水の削減に努める
- ②こまめに節水に努める。洗浄時に流しっ放しで洗浄しない。
- ③節水を促す為の啓蒙表示をする。

4. フロン排出抑制の推進：(施設課施設G)

機器更新により特定フロンを利用している機器を撤廃する。



VIII.次年度の環境経営計画

若狭工場

5. 整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(5S)の推進 : (5S委員会)

① まずしつけ(1S)、「大きな声で挨拶をおこなう」から始める。

6. その他(エンジニアリングG)

① その他、環境に関する情報の収集。

II. その他の取り組み事項(総務部)

① 社員の環境への意識高揚のために定期的な研修会や会議を行う。



Ⅸ.法規の遵守状況

本社・大阪工場

項目	法規名	順守事項	当社の順守内容	結果	チェック日	確認者
一般	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	1. 特定施設の確認（ばい煙発生施設、水質汚濁特定施設、騒音発生施設・振動発生施設）	工場施設の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
		2. 特定施設の申請	申請書の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
大気	大気汚染防止法	1. 特定施設の確認	施設(ボイラー:伝熱面積 10m2以上、燃焼能力 50L/時 以上)の確認	対象外施設 (設備のメンテ及び測定を実施)	2023/12/4	里仲 達也
		2. 排出基準の遵守	基準を超えないこと	対象外施設のため基準管理不要	2023/12/4	里仲 達也
		3. 測定の記録と保管	記録保管の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
		4. 定期報告	定期報告の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	1. 点検(簡易・定期)の実施	点検実施の確認	簡易点検実施済み	2023/12/4	里仲 達也
		2. 点検および整備内容を記録し保管する	記録の確認	記録書類確認済み	2023/12/4	里仲 達也
水質	下水道法	1. 水質基準の順守 pH:5を超え～9未満,BOD: 600mg/L, SS: 600mg/L, ノルマルヘキサン抽出物質:5mg/L(鉍), 30mg/L(動)	水質基準を超えないこと	運転管理実行中	2023/12/4	里仲 達也
		2. 測定の記録と保管	記録の確認	記録書類確認済み	2023/12/4	里仲 達也
		3. 定期報告	報告の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
	浄化槽法	1. 設置または変更時の届出	設置変更届の確認		2023/12/4	里仲 達也
		2. 保守点検	点検実施の確認	対象外施設	2023/12/4	里仲 達也
		3. 定期検査	定期検査の確認		2023/12/4	里仲 達也
騒音	騒音規制法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	規制対象地域(第二種区域)	2023/12/4	里仲 達也
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	届出提出済み(空気圧縮機)	2023/12/4	里仲 達也
		3. 基準の順守 (午前6時～8時:50db以下, 午前8時～午後6時:55db以下, 午後6時～午後9時:50db以下, 午後9時～翌午前6時:45db以下)	指定区域では基準を超えないこと	基準内で管理	2023/12/4	里仲 達也
振動	振動規制法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	規制対象地域(第一種区域)	2023/12/4	里仲 達也
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	届出提出済み(空気圧縮機)	2023/12/4	里仲 達也
		3. 基準の順守 (午前6時～午後9時:60db以下, 午後9時～翌午前6時:55db以下)	指定区域では基準を超えないこと	基準内で管理	2023/12/4	里仲 達也



Ⅸ.法規の遵守状況

本社・大阪工場

項目	法規名	順守事項	当社の順守内容	結果	チェック日	確認者
悪臭	悪臭防止法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	規制地域(臭気指数規制)	2023/12/4	里仲 達也
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	不要	2023/12/4	里仲 達也
		3. 基準の順守	指定区域では基準を超えないこと	基準内で管理	2023/12/4	里仲 達也
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法) 依頼する場合	1. 産業廃棄物の保管は保管施設で行う	掲示板(600×600以上)	掲示済み	2023/12/4	里仲 達也
		2. 運搬処分は許可を受けたものが行う	許可証(番号、有効期限、契約書等)の確認	確認済み	2023/12/4	里仲 達也
		3. 多量排出者(500t/年)は減量計画書を知事に報告	産業廃棄物減量化計画書の作成、提出	500t未満のため、対象外	2023/12/4	里仲 達也
		4. 管理票(マニフェスト)の交付	運搬処分は90日、最終処分は180日	実施対応済み	2023/12/4	里仲 達也
		5. 管理表に関する報告書の提出(県、市)	前年4/1から3/31まで(第12条3第6項)	実施対応済み	2023/12/4	里仲 達也
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	1. 特定化学物質の使用 (質量1トン以上、従業員21名以上)	特定化学物質の使用(1トン以下)確認 →対象なし	確認済み	2023/12/4	里仲 達也
		2. 定期報告	報告の確認	対象外施設のため不要	2023/12/4	里仲 達也
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	1. 対象施設の確認 (1)第1種 重油換算 3000KL以上 (2)第2種 重油換算 1500KL以上	工場施設の確認 300～400KL/GJ(大阪)	対象外施設のため不要 特定事業者(1,500KL以上)	2023/12/4	里仲 達也
	毒物および劇物取締法	1. 対象施設の確認 (1)研究開発	保管と数量管理	保管場所の表示および施設管理を実施 保管数量と使用数量を把握している	2023/12/4	青井 謙一 良

確認の結果、環境関連法規への違反は認められませんでした。
また、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。



Ⅸ.法規の遵守状況

若狭工場

項目	法規名	順守事項	当社の順守内容	結果	チェック日		確認者
一般	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	1. 特定施設の確認（ばい煙発生施設、水質汚濁特定施設、騒音発生施設・振動発生施設）	工場施設の確認	騒音発生施設として登録済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 特定施設の申請	申請書の確認	申請書確認済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
大気	大気汚染防止法	1. 特定施設の確認	施設（ボイラー：伝熱面積 10m ² 以上、燃焼能力 50L/時 以上）の確認	対象外施設 （設備のメンテ及び測定を実施）	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 排出基準の遵守	基準を超えないこと	対象外施設のため基準管理不要	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 測定の記録と保管	記録保管の確認	対象外施設のため不要	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		4. 定期報告	定期報告の確認	対象外施設のため不要	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	1. 点検（簡易・定期）の実施	点検実施の確認	点検実施済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 点検および整備内容を記録し保管する	記録の確認	記録書類確認済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
水質	水質汚濁防止法	3. 漏洩（1000t以上）報告	報告の確認	1000t以上の漏洩無し	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		1. 特定施設の確認 （有害物質使用特定施設等設置）	工場施設の確認 （有害物質使用特定施設等設置）	対象外施設 （有害物質（ジクロロメタン）の使用廃止により、特定施設の廃止届を提出。2021年8月20日に受理済み。）	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 水質基準の順守 （pH:6.0～8.5,BOD:30mg/L,COD:30mg/L,SS:30mg/L,ノルマルヘキサン抽出物質（鉱）:3mg/L,鉛及びその他の化合物:0.1mg/L）	水質基準を超えないこと	令和5年11月～12月にE～J棟側のCODが37mg/Lと排水基準を超えた。また令和6年2月に若狭町の定期検査により、E～J棟側のSSが排水基準を超えているとの連絡と、改善報告書の提出を求められた。改善対応は令和6年3月に完了。	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 測定の記録と保管	記録の確認	記録書類確認済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
	浄化槽法	4. 定期報告	報告の確認	報告済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		1. 設置または変更時の届出	設置変更届の確認	届出書の確認済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 保守点検	点検実施の確認	点検実施済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 定期検査	定期検査の確認	定期検査実施済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
	騒音規制法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	指定区域（若狭町公害防止協定）	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	若狭町公害防止協定で提出済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
騒音	騒音規制法	3. 基準の順守 （午前6時～8時:60db以下, 午前8時～午後7時:65db以下, 午後7時～午後10時:60db以下, 午後10時～翌午前6時:55db以下）	指定区域では基準を超えないこと	若狭町公害防止協定の基準で管理を実施	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
振動	振動規制法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	指定区域（若狭町公害防止協定）	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	若狭町公害防止協定で提出済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 基準の順守 （午前8時～午後7時:60db以下, 午後7時～翌午前8時:55db以下）	指定区域では基準を超えないこと	若狭町公害防止協定の基準で管理を実施	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝



Ⅸ.法規の遵守状況

若狭工場

項目	法規名	順守事項	当社の順守内容	結果	チェック日		確認者
悪臭	悪臭防止法	1. 指定区域の確認	工場現場の指定区域の確認	指定区域(若狭町公害防止協定)	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 事前届出	指定区域では7日前まで市町村長へ	若狭町公害防止協定で提出済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 基準の順守	指定区域では基準を超えないこと	若狭町公害防止協定の基準で管理を実施	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法) 依頼する場合	1. 産業廃棄物の保管は保管施設で行う	掲示板(600×600以上)	掲示済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 運搬処分は許可を受けたものが行う	許可証(番号、有効期限、契約書等)の確認	確認済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		3. 多量排出者(500t/年)は減量計画書を知事に報告	産業廃棄物減量化計画書の作成、提出	500t未満のため、対象外	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		4. 管理票(マニフェスト)の交付	運搬処分は90日、最終処分は180日	実施対応済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		5. 管理表に関する報告書の提出(県、市)	前年4/1から3/31まで(第12条3第6項)	対応済み	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	1. 特定化学物質の使用 (質量1トン以上、従業員21名以上)	特定化学物質の使用(1トン以上)確認	特定化学物質を使用 【N-(4-ヒドロキシフェニル)アセトアミド】について、 2024年04月以降、対象から除外された。	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
		2. 定期報告	報告の確認	Webによる報告登録を実施	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
エネルギー	エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	1. 対象施設の確認 (1)第1種 重油換算 3000KL以上 (2)第2種 重油換算 1500KL以上	工場施設の確認	エネルギー使用量が重油換算1500KL未満と 1500KL以上の二つの工場で管理 ・若狭第一工場(指定外) ・若狭第二工場(第2種)	2024/3/29	2024/9/27	宮崎 文孝
毒物・劇物	毒物および劇物取締法	1. 対象施設の確認 (1)研究開発	保管と数量管理	保管場所の表示および施錠管理を実施 保管数量と使用数量を把握している	2024/3/29	2024/9/27	吉田 長史

確認の結果、環境関連法規への違反は認められませんでした。
また、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。



X.代表者の見直し

生産数量が増加し、工場の稼働エリアが拡張する中でも、前年比較で低減を目指す意欲的な目標値を設定しチャレンジした1年でしたが、両拠点とも半分以上の指標で目標値をクリアすることができ、また、目標値達成が成せなかった指標についても、原単位では基準値よりも改善されている結果となりました。

この成果は、エコアクションの認証を頂く以前から10年以上に渡る環境・エネルギーに関する取り組みが実を結び、しっかりと意識が根付いてきたことの表れであると自負しております。今後も、両工場にて設備を増強しさらに生産数量を増加させる計画が進行しておりますが、環境に配慮したエネルギー効率の高い生産設備・ユーティリティ設備の導入を積極的に選択するとともに、日々の製造が環境に与える影響についての知識を得られるような地道な社内教育に継続的に取り組み、更なるエネルギーの効率的な活用、廃棄物の削減を進めて参ります。

引き続き、環境負荷低減に向けた取り組みを組織全体で推進し、医薬品製造において日々品質・生産性の向上並びに改善に取り組む事で、この活動による成果を目指します。

2025年2月 代表取締役 蔵野 裕子